

## 第 1 問 (等加速度運動, 衝突)

【メモ】

・問 1 から問 3 までは非等速円運動の問題。非等速円運動は,

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{運動方程式 (中心成分)} \\ \text{力学的エネルギー保存則} \end{array} \right.$$

を連立して解く\*1.

・問 4 以降は複数物体系の運動。複数物体系の運動は,

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{外力のない方向の運動量保存則} \\ \text{力学的エネルギー保存則} \\ \text{(束縛条件)} \end{array} \right.$$

を連立して解くことが基本となる。本問は束縛条件まで考える必要のある問題である。このタイプは、受験生としては手が付かないことが多くかつ計算も煩雑になり、基本的に試験時間内で処理するのは難しい。

【解答】

問 1 加速度の成分はそれぞれ  $a_x = a_y = -\frac{1}{\sqrt{2}}g$  である。よって、公式より,

$$\left\{ \begin{array}{l} v_x = v_0 \cos \alpha - \frac{1}{\sqrt{2}}gt, \\ v_y = v_0 \sin \alpha - \frac{1}{\sqrt{2}}gt. \end{array} \right.$$

問 2 打ち出されてから 1 回目の衝突までの時刻  $t$  における物体の位置は,

$$\left\{ \begin{array}{l} x = v_0 \cos \alpha t - \frac{1}{2\sqrt{2}}gt^2, \\ y = v_0 \sin \alpha t - \frac{1}{2\sqrt{2}}gt^2. \end{array} \right.$$

$y = 0$  を解いて,

$$t_1 = \frac{2\sqrt{2}v_0 \sin \alpha}{g}, \quad L = x(t_1) = \frac{2\sqrt{2}v_0^2}{g} \sin \alpha (\cos \alpha - \sin \alpha).$$

\*1 力学的エネルギー保存則は接線方向の運動方程式と同値な関係にある。主要なテーマとしては、微小角の単振り子、ベータatron では、例外的に接線方向の運動方程式を考える。

問3  $v_x(t_1) = 0$  より,

$$v_0 \cos \alpha - \frac{1}{\sqrt{2}}g \cdot \frac{2\sqrt{2}v_0 \sin \alpha}{g} = 0$$

$$\sqrt{1 - \sin^2 \alpha} - 2 \sin \alpha = 0 \quad \therefore \sin \alpha = \frac{1}{\sqrt{5}}.$$

問4 衝突後の速度の  $y$  成分は,

$$v_y(t_1) = -e(v_0 \sin \alpha - 2v_0 \sin \alpha) = ev_0 \sin \alpha.$$

衝突後から再度  $t = 0$  とすると, 物体の位置は\*2,

$$\begin{cases} x = \frac{2\sqrt{2}v_0^2}{5g} - \frac{1}{2\sqrt{2}}gt^2, \\ y = \frac{1}{\sqrt{5}}ev_0t - \frac{1}{2\sqrt{2}}gt^2. \end{cases}$$

$y = 0$  を解いて,

$$t_2 = \frac{2\sqrt{2}ev_0}{\sqrt{5}g} = \underline{\underline{et_1}}.$$

問5 2回目から3回目の衝突までの時間間隔は  $t_3 = e^2t_1$  である. よって,

$$x_Q + v_{x,Q}e^2t_1 - \frac{1}{2\sqrt{2}}g(e^2t_1)^2 = 0$$

$$\frac{2\sqrt{2}v_0^2}{5g} - \frac{1}{2\sqrt{2}}(et_1)^2 - \frac{1}{\sqrt{2}}ge^3t_1^2 - \frac{1}{2\sqrt{2}}(e^2t_1)^2 = 0$$

$$\frac{2\sqrt{2}v_0^2}{5g} - \frac{1}{2\sqrt{2}}g \left( \frac{2\sqrt{2}ev_0}{\sqrt{5}g} \right)^2 e^2(1 + 2e + e^2) = 0$$

$$\frac{2\sqrt{2}v_0^2}{5g} \{1 - e^2(1 + e)^2\} = 0$$

$$\frac{2\sqrt{2}v_0^2}{5g} \{1 + e(1 + e)\} \{1 - e(1 + e)\} = 0$$

$$\therefore 1 - e(1 + e) = 0$$

$$\therefore e = \frac{\sqrt{5} - 1}{2}.$$

\*2  $\sin \alpha = \frac{1}{\sqrt{5}}$ ,  $\cos \alpha = \frac{2}{\sqrt{5}}$ ,  $L = \frac{2\sqrt{2}v_0^2}{5g}$  を用いた.

## 第2問 (荷電粒子の運動, 見かけの重力)

【解答】

問1 つりあいより,

$$\begin{cases} 0 = \frac{1}{2}T - mg, \\ 0 = QE - \frac{\sqrt{3}}{2}T, \end{cases} \quad \therefore E = \frac{\sqrt{3}mg}{Q}, \quad g' = \sqrt{g^2 + \left(\frac{QE}{m}\right)^2} = \underline{\underline{2g}}.$$

問2 エネルギー収支から逆算して\*3\*4,

$$W_{\text{ex}} = \Delta U = mg' \frac{L}{2} = \underline{\underline{mgL}}.$$

問3 小球が A から時計回りに角度  $\theta$  だけ回転した位置にあるときを考える. 運動方程式 (中心成分)・力学的エネルギー保存則は,

$$\begin{cases} m \frac{v^2}{L} = T - mg' \cos \theta, \\ \frac{1}{2}mv^2 + mg'L(1 - \cos \theta) = mg'L(1 - \cos 60^\circ). \end{cases}$$

$\theta = 0$  を考えて,

$$\begin{cases} m \frac{v^2}{L} = T - mg', \\ \frac{1}{2}mv^2 = mg'L(1 - \cos 60^\circ), \end{cases} \quad \therefore T = \underline{\underline{4mg}}.$$

問4 OA を軸とした単振り子と見なせるので, P の OA に関して対称な点 (図1の点 Q) を考えればよい\*5. よって,  $\left(\frac{\sqrt{3}}{2}L, \frac{1}{2}L\right)$ .

問5 O のに関して A と対称な位置 ( $\theta = \pi$  の位置) で張力の大きさ  $T$  が 0 以上であれば良い\*6. 運動方程式 (中心成分)・力学的エネルギー保存則より,

$$\begin{cases} m \frac{v^2}{L} = T + mg', \\ \frac{1}{2}mv^2 + mg' \cdot 2L = \frac{1}{2}mv_0^2, \end{cases} \quad \therefore T = m \frac{v_0^2}{L} - 5mg' \geq 0, \quad \therefore v_0 \geq \underline{\underline{10gL}}.$$

\*3 仕事の定義から求める方がシンプルだと思うが, 全体の流れに沿った解答にした. 定義による計算は【補足】を参照.

\*4 見かけの重力を用いる際の, 見かけの重力に対応した高さは図1を参照.

\*5 問3より, 角度  $\theta$  における  $v$  は,

$$v = \sqrt{2gL(2\cos\theta - 1)}$$

と求まり,  $v = 0$  を満たす角度  $\theta$  を求めても良い ( $\theta = -60^\circ$ ).

\*6 今の場合, 運動方程式と力学的エネルギー保存則より,

$$T = m \frac{v_0^2}{L} - 2mg'L + 3mg'L \cos \theta$$

と求まり, 張力の大きさ  $T$  は  $\theta = \pi$  のとき最小とわかる (わざわざ計算しなくてもわかることだけ).

問6 Pでの速さは,

$$\frac{1}{2}mv^2 = mg\frac{L}{2}, \quad \therefore v = \sqrt{gL}.$$

小球は  $zx$  平面内では等速円運動を行い, その半径は運動方程式 (中心成分) より,

$$m\frac{(\sqrt{gL})^2}{r} = Q\sqrt{gL}B, \quad \therefore r = \frac{m\sqrt{gL}}{QB}.$$

よって, 円運動の周期  $T$  は,

$$T = \frac{2\pi r}{v} = \frac{2\pi m}{QB}$$

であり,  $yz$  平面を1回目通過する位置は  $\dot{y} = -g$  より,

$$y = -L - \frac{g}{2} \left( \frac{\pi m}{QB} \right)^2.$$

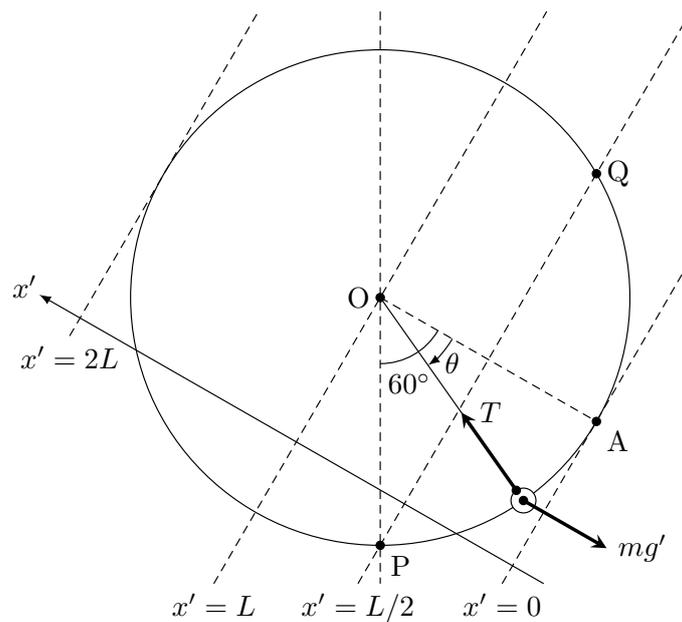


図1  $x'$  は見かけの重力に対応した「見かけの高さ」を表す

【補足】仕事

小球に加える外力  $\vec{f}_{\text{ex}}$  は重力, およびクーロン力とつりあう. よって, 定義より,

$$W_{\text{ex}} = -\vec{f} \cdot \Delta\vec{r} = \begin{pmatrix} -\sqrt{3}mg \\ mg \end{pmatrix} \cdot \begin{pmatrix} -\frac{\sqrt{3}}{2}L \\ \frac{L}{2} \end{pmatrix} = \underline{\underline{mgL}}.$$

### 第3問 (波動いろいろ)

【メモ】

- ・問1, 問3, 問4は幾何光学. 問1, 問3で考えるのは図形の関係のみで, 問1は角度を見つける(対頂角), 問3は長さから長さを決定する(相似に注目). 問4は屈折の法則を用いる<sup>\*7</sup>.
- ・問2は回折格子の干渉.

【解答】

問1 図3-1より,

$$\begin{aligned}\tan 2\theta &= \frac{Y}{X} \\ 2\theta &\doteq \frac{Y}{X} = \frac{10 \times 10^{-3} \text{ m}}{1.00 \text{ m}}, \quad \therefore \theta = \underline{\underline{5.0 \times 10^{-3} \text{ rad}}}.\end{aligned}$$

問2  $m$  次の明線を観測する方向を  $\theta_m$  とすると, 干渉条件より,

$$\begin{aligned}\frac{2\pi}{\lambda} d \sin \theta_m &= 2m\pi \\ \theta_m &\doteq \frac{\lambda}{d} m.\end{aligned}$$

$m = 1$  を考えて,

$$d = \frac{\lambda}{\theta_1} \doteq \frac{\lambda}{\tan \theta_1} = \frac{\lambda}{Y/X} = \underline{\underline{5.0 \times 10^{-5} \text{ m}}}.$$

問3 図3-2より,

$$\begin{aligned}\frac{q}{f} &= \frac{Y - q}{X - f} \\ \therefore q &= \frac{Y}{X} f = \underline{\underline{4.0 \times 10^{-3} \text{ m}}}.\end{aligned}$$

問4 屈折の法則より(図3-3),

$$n \sin \alpha = 1 \cdot \sin \beta, \quad \therefore \beta \doteq n\alpha.$$

よって,

$$\frac{Y}{X} = \tan(\beta - \alpha) \doteq \beta - \alpha = (n - 1)\alpha, \quad \therefore \alpha = \underline{\underline{2.0 \times 10^{-2} \text{ rad}}}.$$

<sup>\*7</sup> 図形の考察手順は過去の教材や補講のノートを参照.

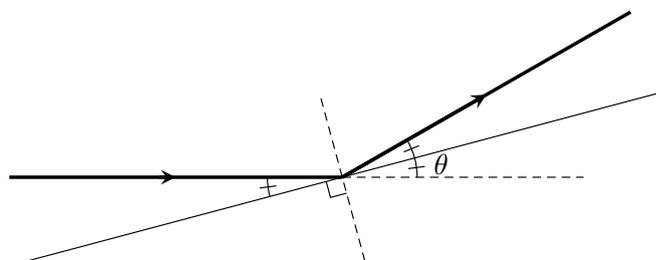


图 3-1

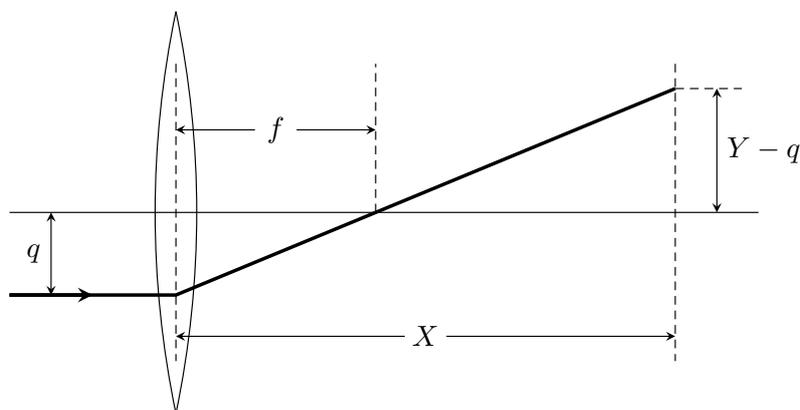


图 3-2

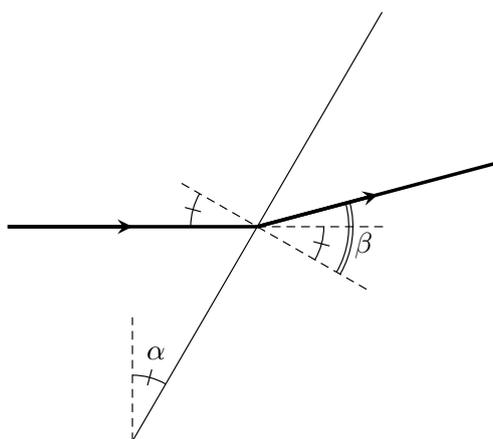


图 3-3